

## 2008 年度：人間文化研究所共同研究プロジェクト

### 名古屋の「観光まちづくり」に関する人文社会科学分野からの学際的研究

#### ◇研究の目的

2007年1月に「観光立国推進基本法」が施行され、住んでよし、訪れてよしの国づくりが進められている。多様な交流の促進と集客力向上による観光の振興は、「成熟都市」名古屋においても重要な政策課題のひとつである。本学の設置者である名古屋市の行政課題に積極的に応えていくうえで、本研究科の特色を活かした研究・教育として、人文社会科学の諸分野から観光と交流に関する学際的な調査研究が求められている。

2006年度に「名古屋の環境・文化・まちづくりと観光に関する学際的研究」をテーマに、特別研究奨励費に応募して採択された。名古屋市からの要望により新設された総合科目「名古屋の観光」の講義、講演会や他都市調査の成果を『名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光』という報告書として刊行した。この報告書は名古屋市民経済局や経済団体からも注目され、講義や研究会のテキスト・資料としても活用し好評であった。

こうした成果をもとに、07年12月12日「名古屋の観光まちづくり」をテーマに公開シンポジウムを中区役所ホールで開催した。本学が協定を結ぶ日本政策投資銀行との連携事業として行われ、約300名の参加があった。今回の研究は、06年度からの蓄積を踏まえて「観光まちづくり」について人文社会科学の諸分野からの学際的な調査研究を目的とする。「観光まちづくり」は交流や観光とまちづくりを相互に関連づけて政策展開するもので、名古屋市の観光や都市政策を推進するうえでも示唆に富むものである。本研究科の特色を活かした学際的研究により、「名古屋論」「名古屋学」の構築をめざすとともに、名古屋市の交流ないし観光施策、とくに「観光まちづくり」に提言を行っていく。あわせて学生や授業公開の聴講生のニーズに積極的に応えるために、総合科目「名古屋の観光」に調査研究の成果を還元していきたい。

#### ◇研究の方法

本研究は2007年3月刊行の『名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光』をベースに、07年12月の「名古屋の観光まちづくり」に関する公開シンポジウムの成果を受け継いで、名古屋の観光・交流や名古屋論についての研究教育をさらに発展させる。そのための具体的な研究計画と方法は次の4点である。

第1に、後期に実施する総合科目「名古屋の観光」の講義準備と関連づけて定期的に研究会を開催する。研究代表者と分担者は、今年度も講義を担当する。昨年度の研究成果「報告書」を兼ねたテキスト、学生や聴講生のレポートや感想の検討を通じて、講義の充実をはかる。とくに「観光まちづくり」についての現状と課題について、東大の西村幸夫教授などの論文を検討して、研究メンバーの理解を深める。講義は今年度も学生から大好評であったJ R 東海相談役の須田寛氏を講師に招き、名

古屋論や産業観光を中心に2回講義してもらおう。昨年度につづき一般市民20名余りに「授業公開」する。なお昨年度につづいて、今年度の講義でも受講した学生や聴講生に市内の観光施設を訪問してもらい、その感想・コメントを中心にしたレポートを書いてもらい、それを講義・研究に活用していく。

第2に、名古屋の「観光まちづくり」をキーワードにして、名古屋市の観光推進室や観光コンベンションビューロー、観光施設やまちづくり団体・NPOと連携して、学生・聴講生・研究員などとともに調査を進める。とくに社会調査実習で再び「観光まちづくり」をテーマにして、参加学生と協働して調査する。いまのところ昨年度のまで継続調査とともに、大須や広小路など名古屋中心市街地の活性化調査を予定している。名古屋の「観光まちづくり」についての知見を深め、政策提言していくために、先進的な取り組みをしている自治体を調査する。昨年度に実施した横浜や福岡・東京などの継続調査とともに、西村教授が講演でとりあげた金沢や高山などにも調査を広げていきたい。

第3に、研究の途中ないし最終段階において、名古屋の「観光まちづくり」をテーマにした講演会・シンポジウムを開催する。開催にあたっては、日本政策投資銀行、名古屋市観光推進室や観光コンベンションビューローなどの協力を得て、できるだけ多くの市民が参加できる形態を考える。

第4に、昨年度につづいて研究成果を報告書としてまとめ、名古屋市の観光・まちづくり関係部局などに配布して活用してもらおう。昨年度は観光の講義ノートが報告書の多くを占めたが、今年度は講義ノートの補充にとどまらず、名古屋の「観光まちづくり」についての人文社会科学の諸分野からの分析と提言、先進的な自治体の取り組みの紹介などにも力を入れる。

#### ◇研究組織

研究代表者	山田 明	人間文化研究科教授
分担者	吉田 一彦	同
	成田 徹男	同
	阪井 芳貴	同
	谷口 幸代	同 准教授